

photopos 35

2016.1.4 ~ 2016.1.28

【神秘学ポエジー～風遊戯 第70集】

photo ヴァージョン

photopos851-875

神秘学遊戯団

photopos-851

2017.1.4

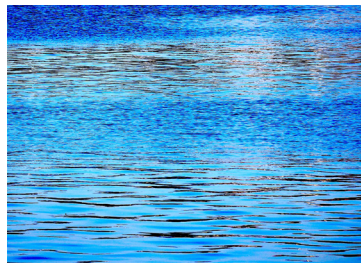
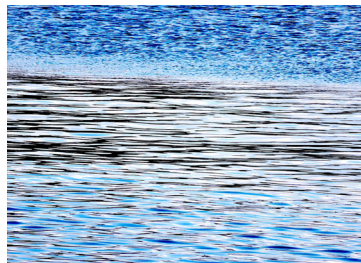


昨日の色
今日の色

心の色は
紡がれ織られ
明日の衣に

夢の時
現の時

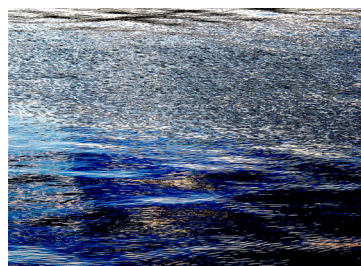
心の時は
紡がれ織られ
明日の標に



* 広島県瀬戸田町にて

photopos-852

2017.1.5



* 広島県瀬戸田町にて

わたつみの

光と風に吹かれゆく

さざめく波の伝えごと

往くものは

やがて還るだろう

汝らもまた

往きて還るか

いにしえに

詠と語りで記された

秘密の文の伝えごと

失われしものは

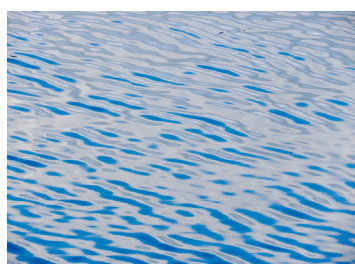
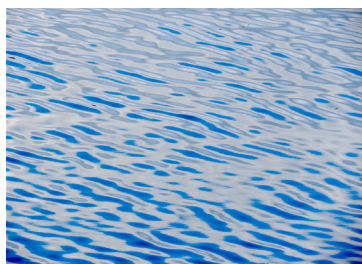
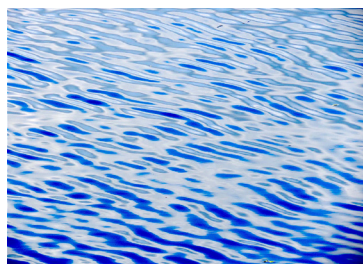
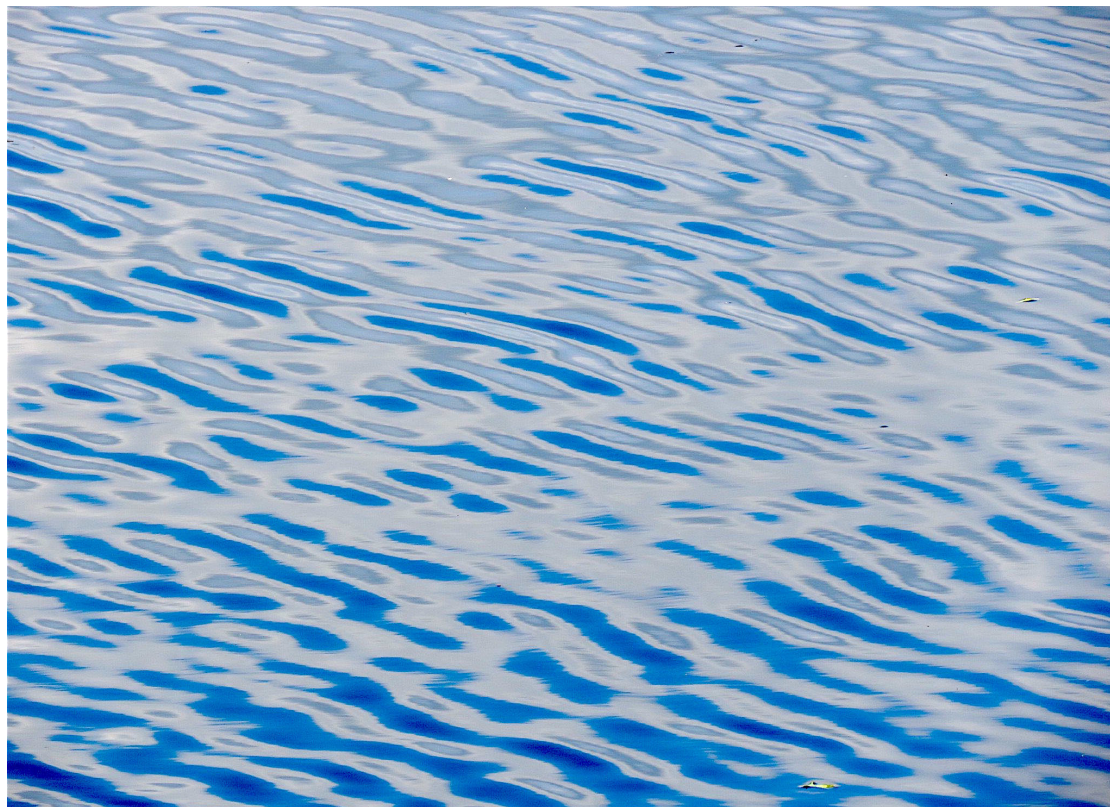
新たに甦るだろう

汝らもまた

新たに甦るか

photopos-853

2017.1.6



悲しきときは
悲しきままに

水面のうたかた
うつろうごとく

時のまにまに
ただようごとく

鏡のなかを
さまようごとく

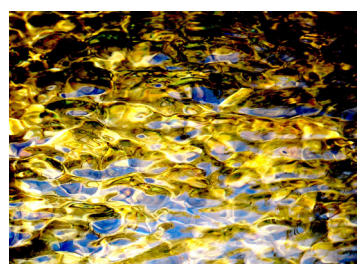
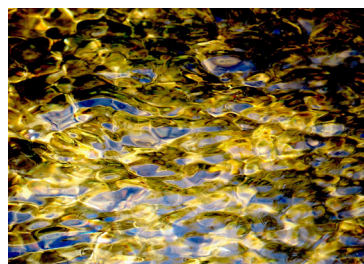
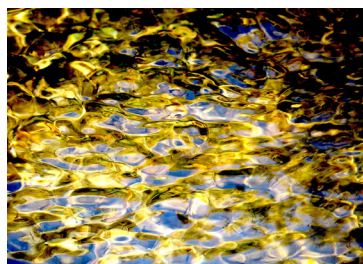
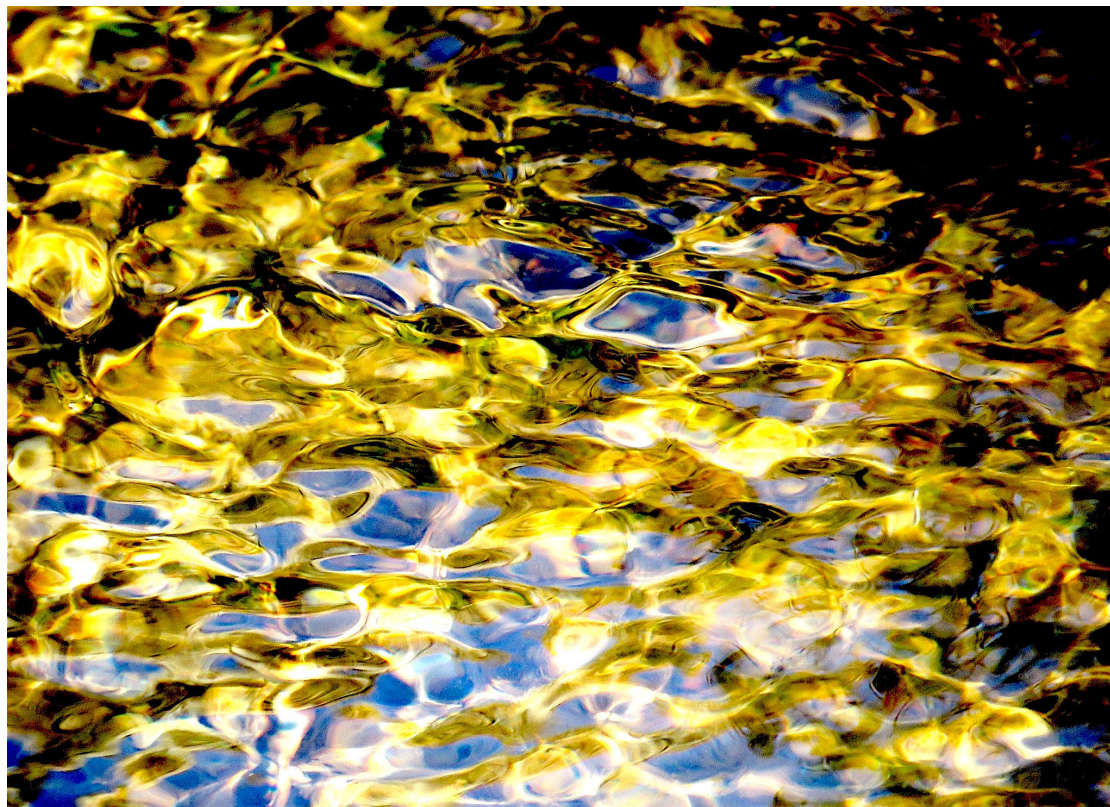
凍った夢の
解けるまで

閉じた蕾の
ひらくまで

さやけき光
浮かぶまで

悲しきときは
流れるままに

* 高知県南国市十一・石土池にて



* 高知県日高村・めだか池にて

心のどこかにしまったままの
光の種を見つけましょう
光の種を見つけたら
夢の庭を探しましょう

夢の庭を見つけたら
光の種を植えましょう
光の種を植えたなら
影のふとんを被せましょう

影のふとんは光の子ども
種をじっくり寝かせましょう
そして上からたっぷり
叡智の水をかけましょう

やがて芽が出て茎も伸び
天へと枝は伸びてゆく
ときには雨も降るでしょう
ときには風も吹くでしょう

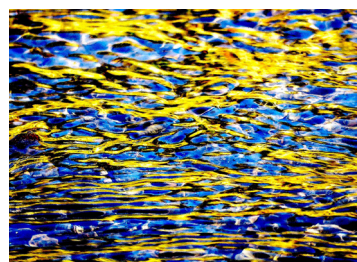
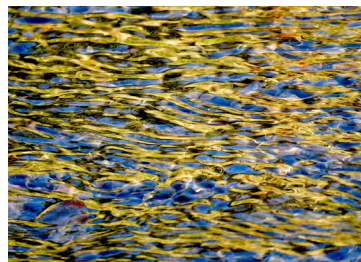
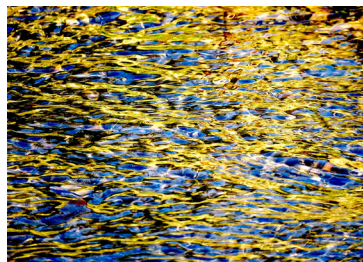
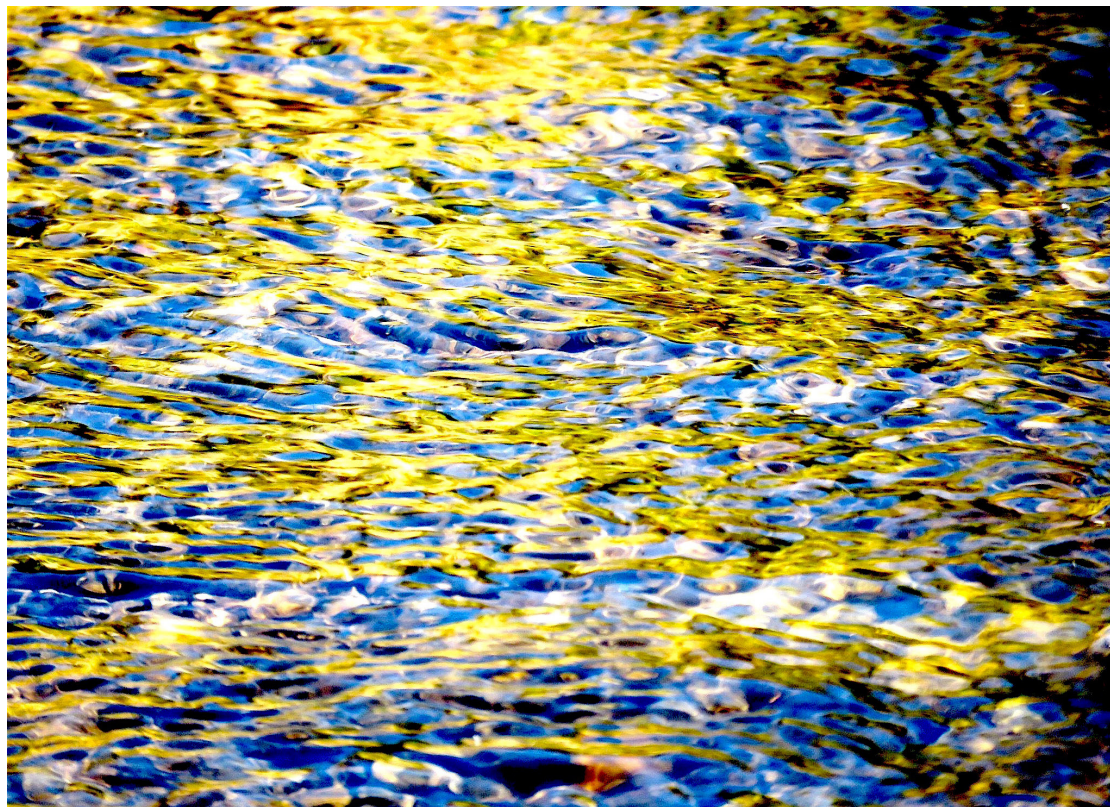
そうして季節は過ぎてゆき
光の花は咲くでしょう
虫や鳥やに囲まれて
光の果実は実るでしょう

光の果実はおしげなく
天と地とを照らすでしょう
けれどもやがて時は過ぎ
なくしてしまうときも来る

心に光をなくしたときは
光の種を探してごらん
光の種を見つけたら
忘れた夢も探してごらん

photopos-855

2017.1.8



* 高知県日高村・めだか池にて

ドキドキ
ヒカリ

はじめて
生まれた
心のように

ドキドキ
ウレシ

はじめて
出合った
手と手のように

ドキドキ
キラリ

はじめて
見つけた
色のように

ドキドキ
...

はじめて
愛した
人のように

photopos-856

2017.1.9

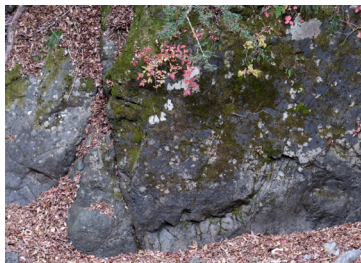


光陰流水の如し
喜怒哀楽千変万化
人の修羅
絶えることなし

久遠を求め
大地を衣とし
巖となりて
時を経る

されど人の時は
生と死のつかのまの光
久遠を求めつつ
刹那の舞

光陰流水の如し
生老病死走馬燈
ならば遊べ
時の深みへ



* 高知県香美市物部町・べふ峡にて

photopos-857

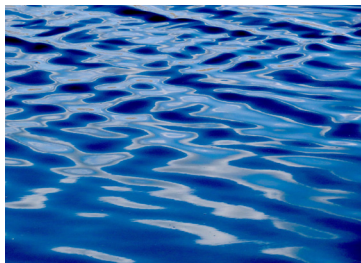
2017.1.10



心の閉じた日には
見えない
聞こえない
色と音の訪れる場所で
静かに過ごす

言葉は教えすぎるから
意味に囚われすぎるから
思考はまるで機械だから
感情もまるでゴミ箱だから

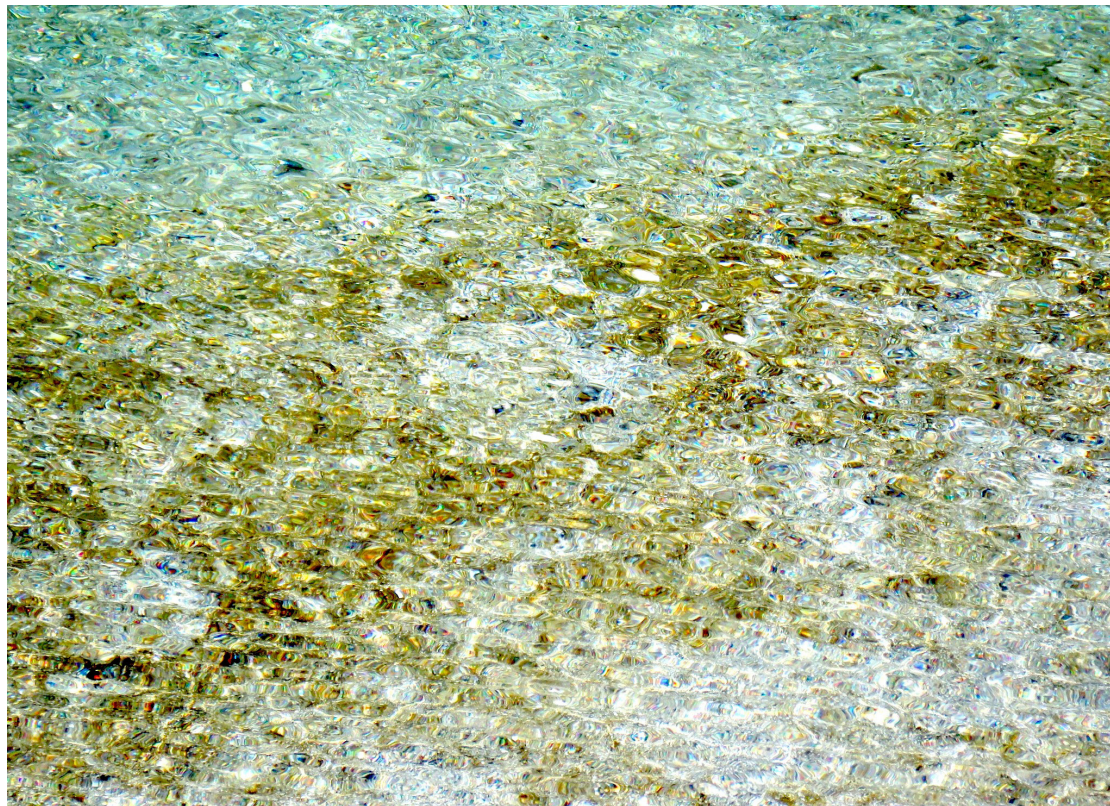
記憶のガラクタや
やっかいな妄想からは
自由になれやしないだろうけど
見えないから見えるもの
聞こえないから聞こえるものを
じっと待ってみるのだ



* 高知県南国市・物部川河口にて

photopos-858

2017.1.11



* 高知県の町・仁淀川上流にて

むさぼるように
世の宝物を求めることは
いらないのです
宝物はもうみんな
たくさんもっているのですから
魂の目と耳で
それを受けとるだけでいい
魂を閉じていると
受けとることはできないのです

手をあわせて
天に祈ることは
いらないのです
祈りはみんな
叶えられているのですから
両手をひろげて
光を受けとるだけでいい
手をあわせていると
受けとることはできないのです

むずかしい顔をして
考えるすぎることは
いらないのです
考えはみんな
訪れてくるのですから
両手をひろげて
それを受けとるだけでいい
考えることを尽くしたら
からっぽになっているだけでいいのです

photopos-859

2017.1.12



魂よ
獲物はあるか

光のうちに
みずからを漁れ

魂よ
永遠の友はあるか

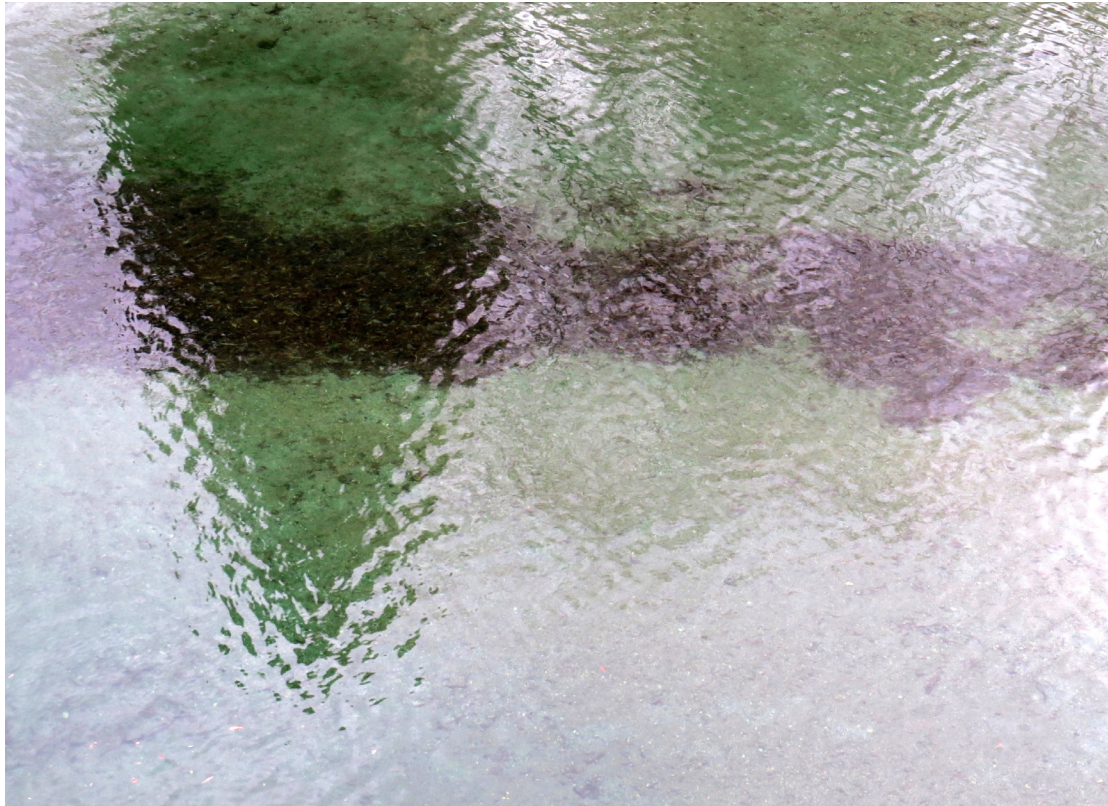
ひとり歩むときこそ
友はいつも寄り添う



* 高知県日高村・めだか池にて

photopos-860

2017.1.13

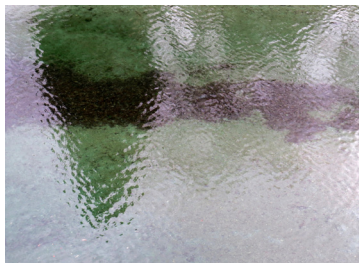


天使はいつも
ここにいる
悲しいときは
そばにいて
わたしの涙と
ともにある

天使はいつも
ここにいる
独りのときは
そばにいて
わたしの心を
きいている

天使はいつも
ここにいる
死んだときは
そばにいて
わたしの体を
ときはなつ

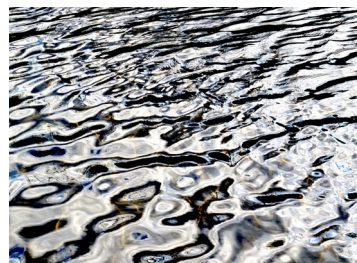
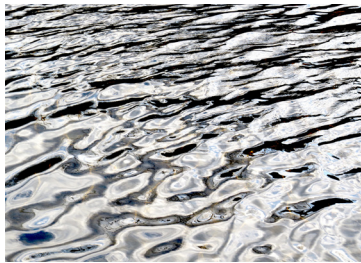
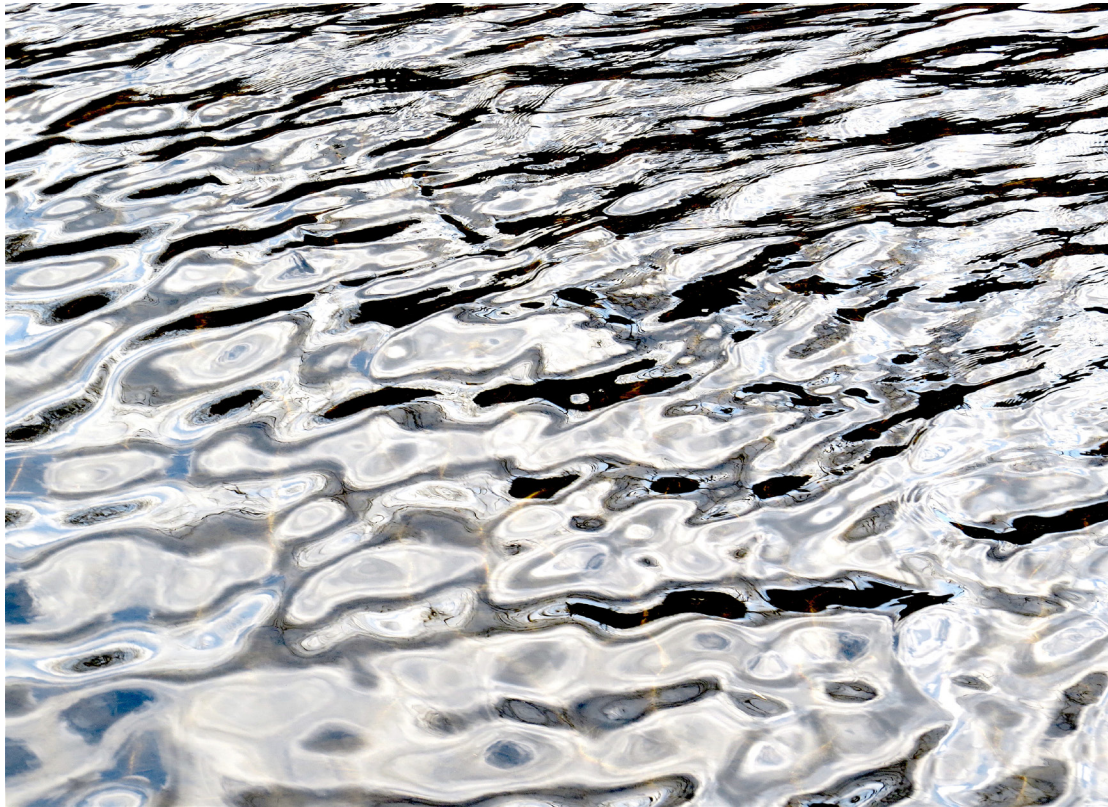
天使はいつも
ここにいる
生れるときは
そばにいて
わたしの時を
とじこめる



* 高知県仁淀川町池川にて

photopos-861

2017.1.14



* 高知県日高村・めだか池にて

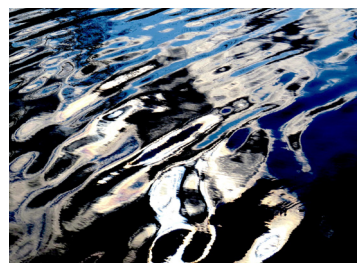
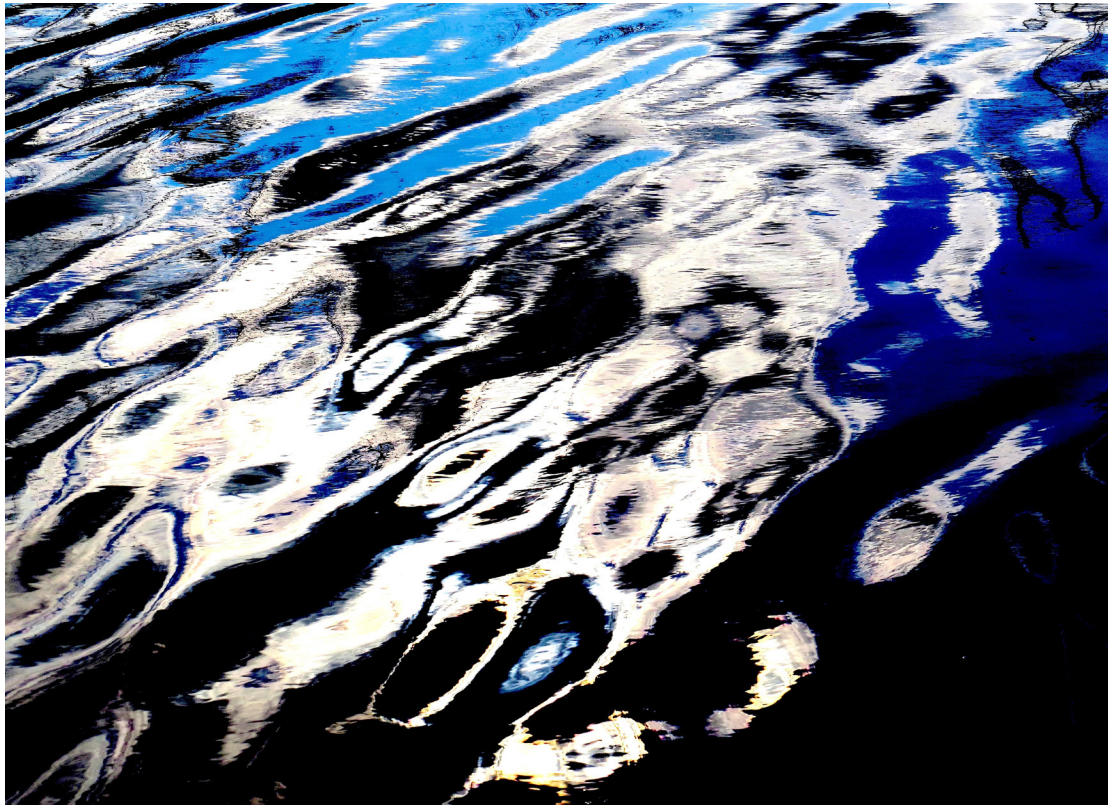
変わらぬものを求め
白き心でさまよい流れるも
変わらぬものは
変われぬわが心ばかり

ほんとうの言葉を求め
雲のごとくめぐりゆくも
言葉の光を遮りながら
むなしく漂うばかり

いのちの秘密を求め
生と死を超えようとするも
永遠はいまだ見つからぬまま
時は徒に過ぎゆくばかり

photopos-862

2017.1.15



* 高知県日高村・めだか池にて

意味なんかないのさ
空が青いのも
水が流れるのも
意味なんかに縛られたくはない

考えなんかないのさ
前のことも
先のことも
考えなんかに縛られたくはない

ぱっぱらぱあ
ぼくはからっぽの
らっぱになって
ぱっぱらぱあ

悲しくなんかないのさ
いまここにいることも
ぼくがぼくであることも
悲しみになんか縛られたくはない

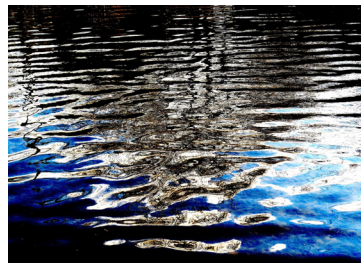
秘密なんかないのさ
天使の祈りも
悪魔のささやきも
世界の秘密になんか縛られたくはない

ぼくはどうしてここにいるんだろう
ぼくはどうしてぼくなんだろう

ぱっぱらぱあ
ぼくはからっぽの
らっぱになって
ぱっぱらぱあ
ぱっぱらぱあ

photopos-863

2017.1.16



* 高知県日高村・めだか池にて

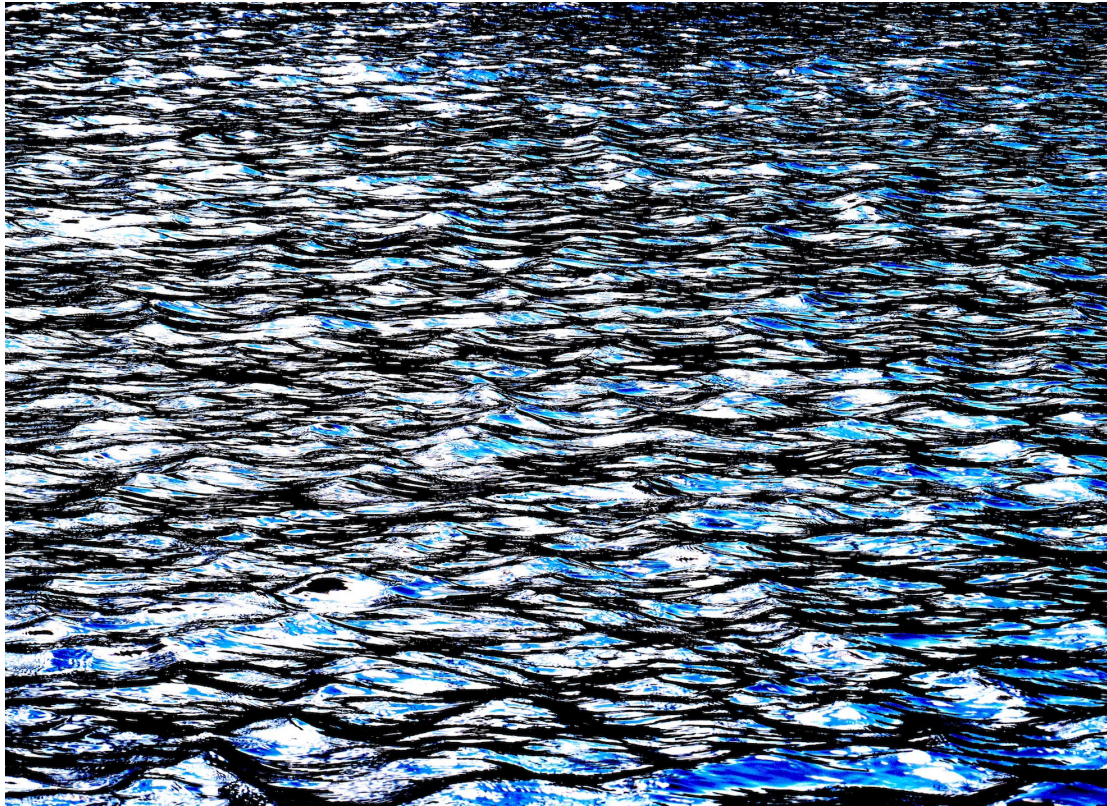
私という幻が
見ているのか
それとも幻が
私を見ているのか

あてなく
うつろい
さまよい
めぐりて

時という秘密の
やがて開かれるまで
私という秘密の
やがて開かれるまで

photopos-864

2017.1.17



光の弦は鳴り
心象の波はきらめき
いちめんの
いちめんの銀の花

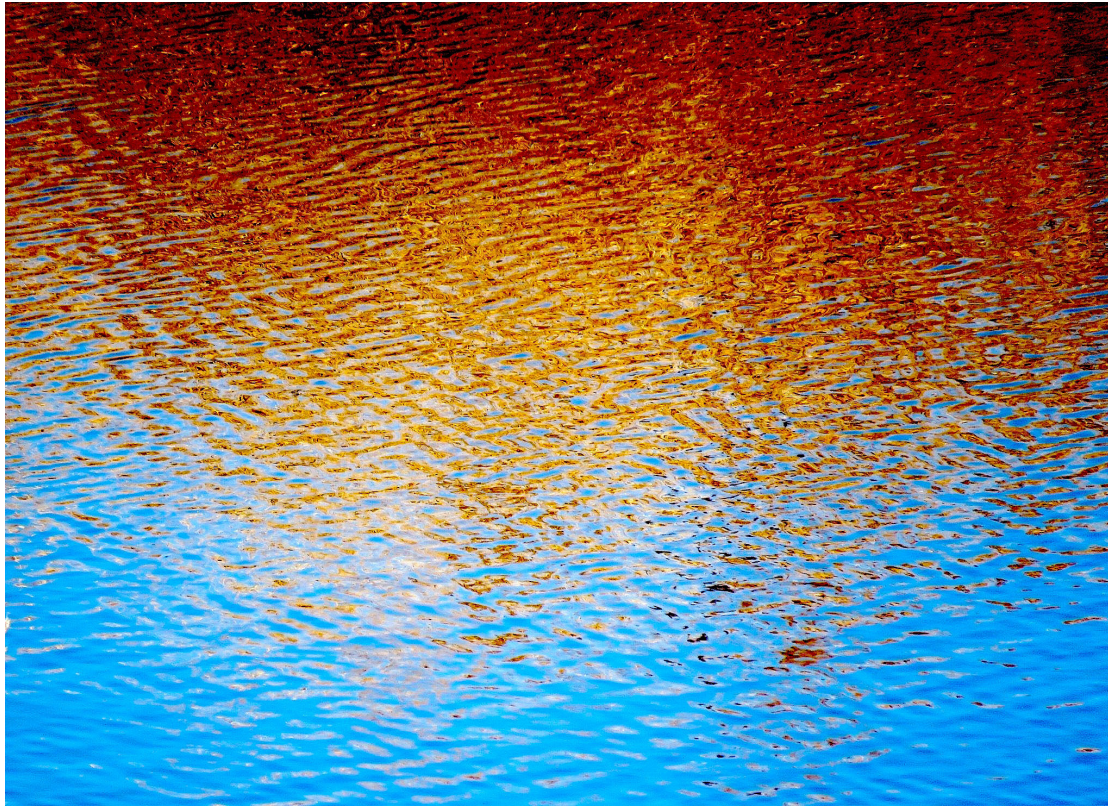
生まれたばかりの
星の言葉のように
はじめて聴いた
水の精の歌のように

光の弦は鳴り
銀の花はさざめき
いちめんの
いちめんの
光と水と風の織物です

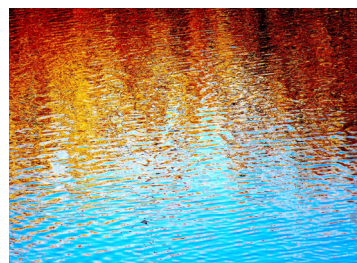
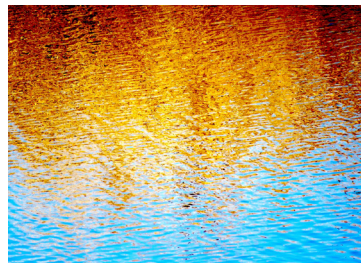
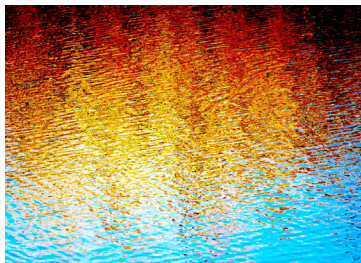
* 高知県日高村・めだか池にて

photopos-865

2017.1.18



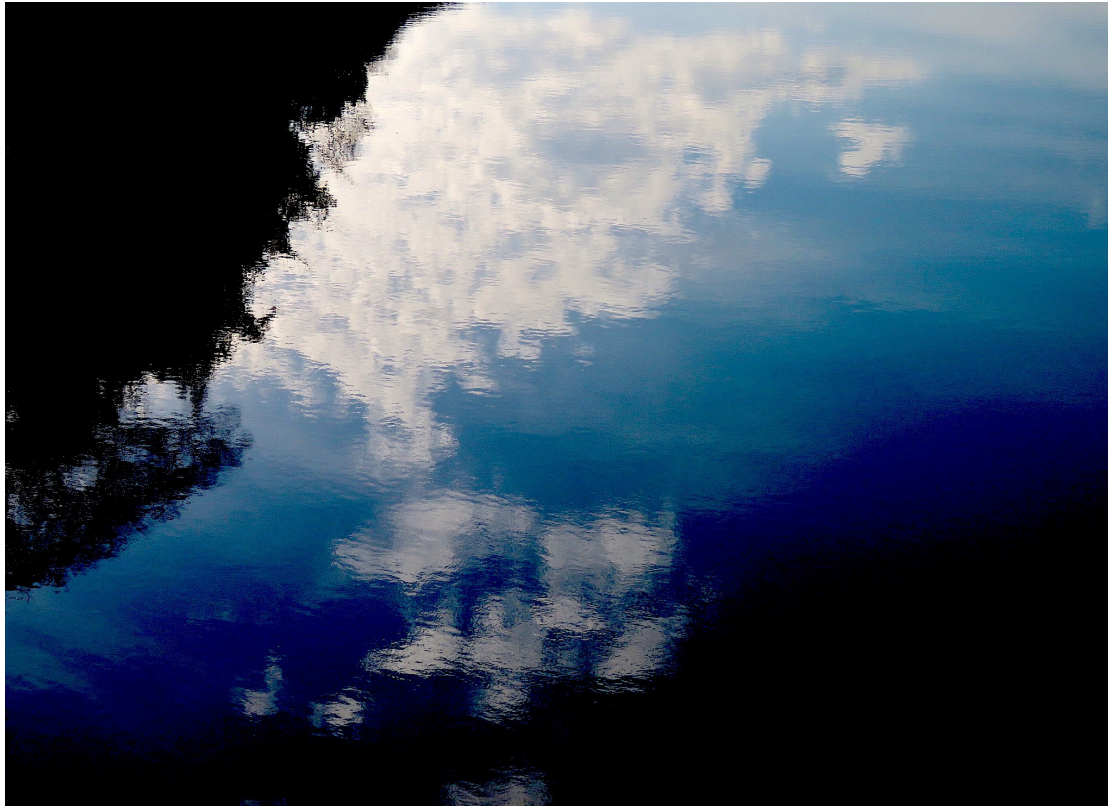
わが心
如何せん
如何せんとて
たまきわる
いのちの赤く
燃ゆるごと
生きて尽くして
夢の果て
鏡に映るは
変わり映えせぬ
わが心の姿なり



* 高知県南国市・物部川河口にて

photopos-866

2017.1.19



ある日の自分に
会いにゆく
ドキドキ

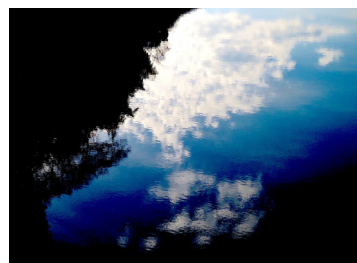
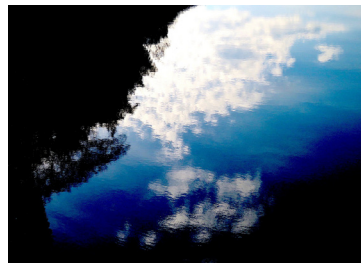
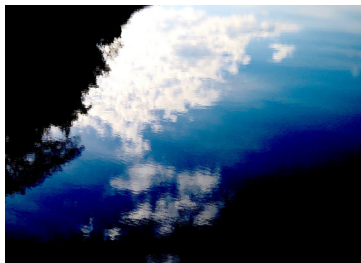
雲はある日の雲のよう
水はある日の水のよう

ある日の自分が
会いにくる
ドキドキ

花はある日の花として
風はある日の風として

ある日の自分と
会いにゆく
ドキドキ

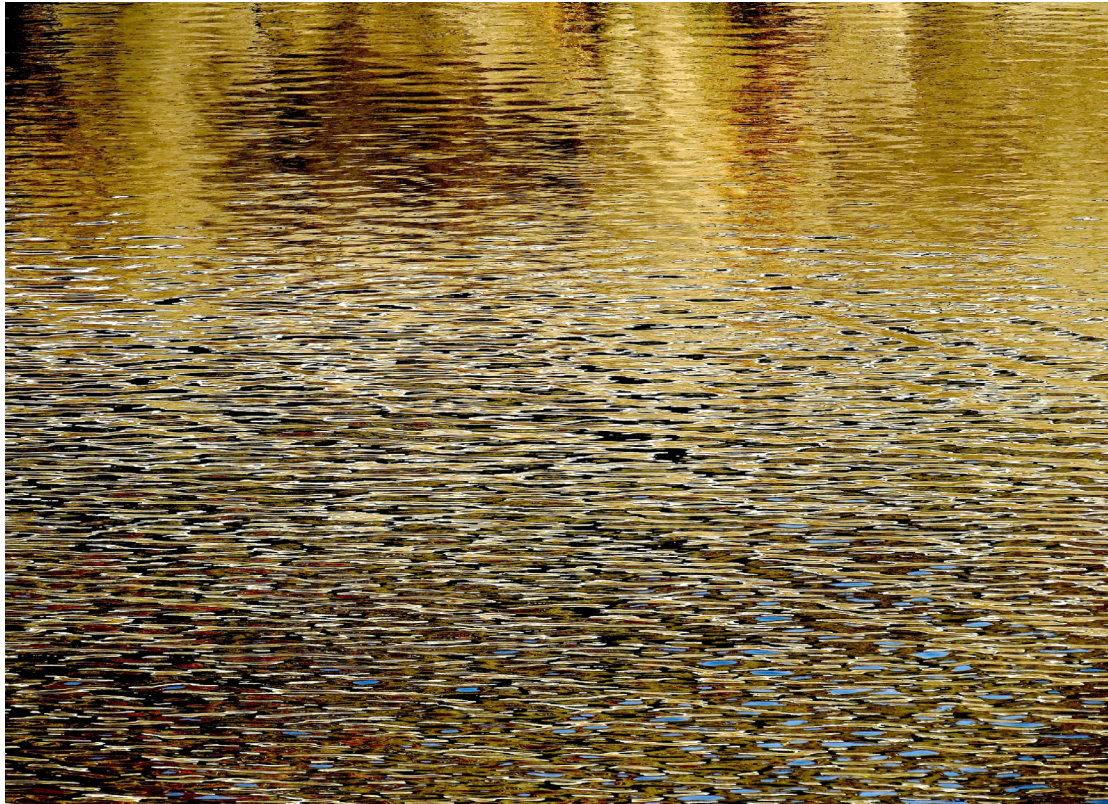
まだ見ぬ自分はどんなかな
知らない歌も聴けるかな



* 高知県香北町・物部川上流にて

photopos-867

2017.1.20



冬の光は輝けり

花なきゆえに

紅葉なきゆえに

冬の心は澄み渡る

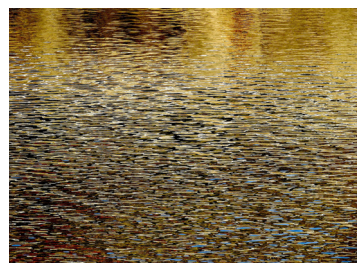
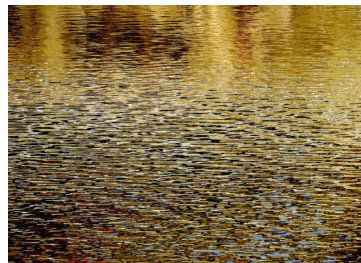
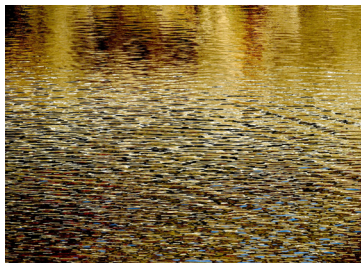
心貧しきゆえに

乞い求めるゆえに

冬言葉は静まりぬ

耳の彼方に向かうがゆえに

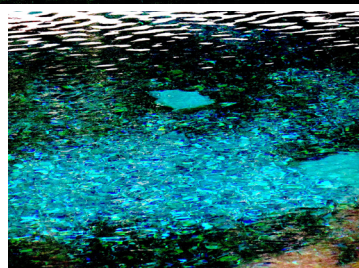
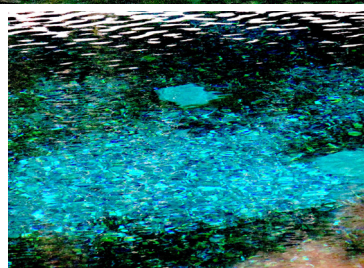
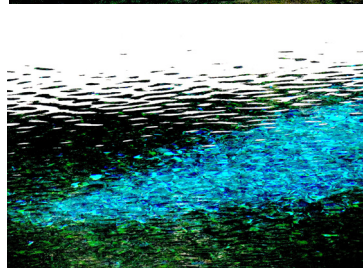
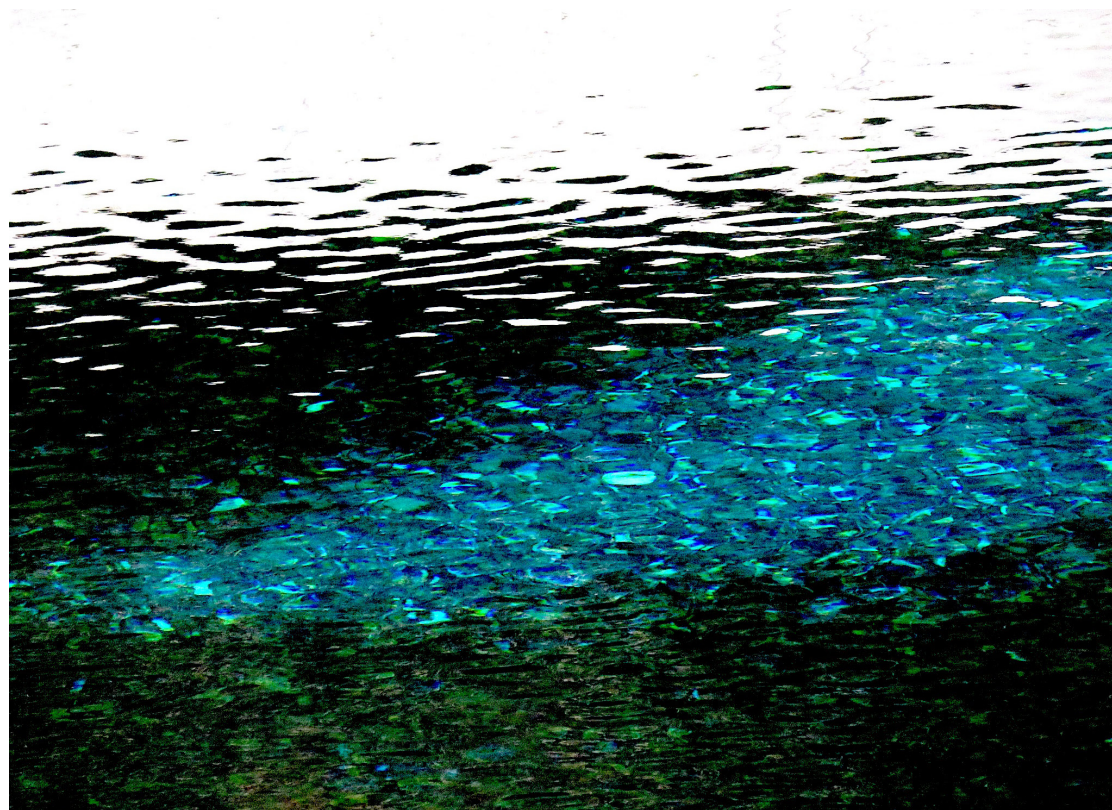
我の深みに届くがゆえに



* 高知県香北町・物部川上流にて

photopos-868

2017.1.21



宝物はありますか
心のなかにそっと
しまっておきたい
宝物はありますか

思い出はありますか
決して忘れたくない
あなただけの大切な
思い出はありますか

忘れたいことはありますか
決して思い出したくない
あなたにとっては苦しみでしかない
忘れてしまいたいことはありますか

深い恐れはありますか
じぶんでも気づかないほどに
どこかで負ってしまった傷のような
深い恐れはありますか

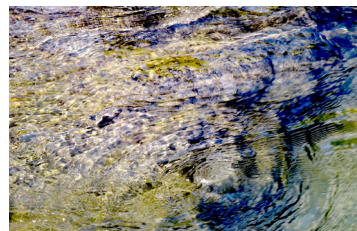
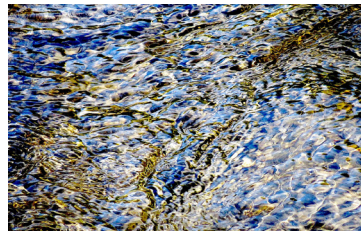
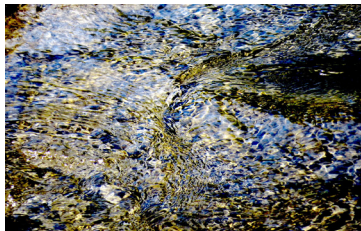
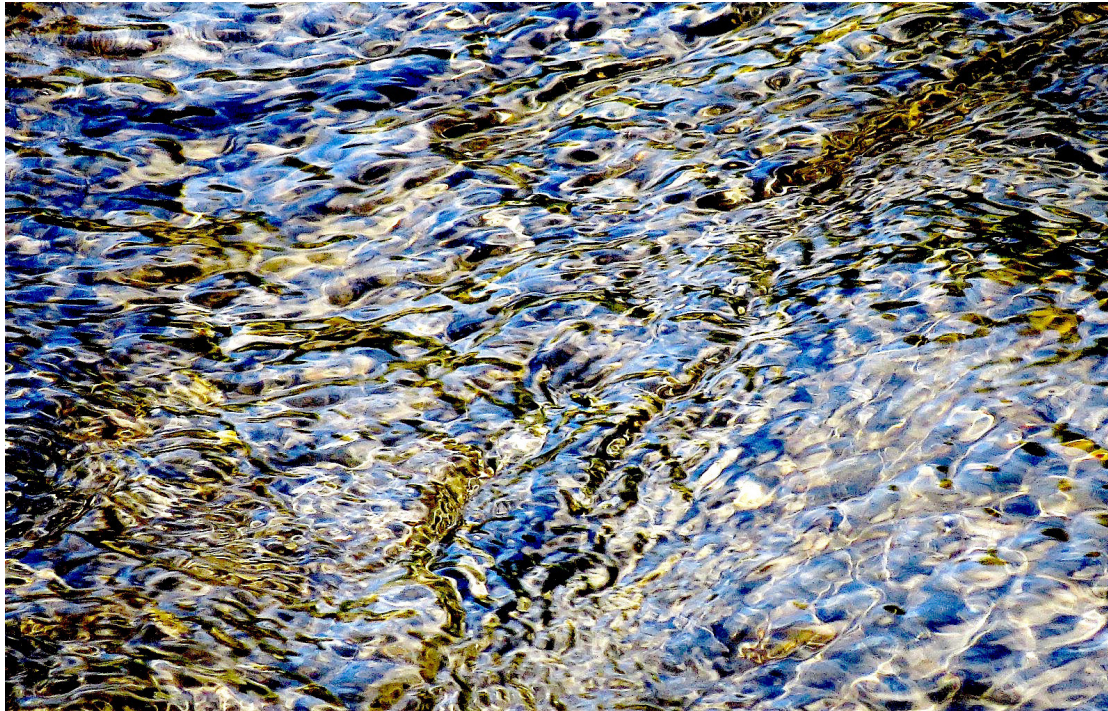
できることならば
すべての悲しみと喜びを越えて
できることならば
すべてを宝物に変えて

風のようにはかないけれど
水のように流れるけれど
そんななかを静かに流れる
時の深みで

* 高知県香北町・物部川上流にて

photopos-869

2017.1.22



* 仁淀川町・仁淀川上流・久喜沈下橋にて

混沌のときは
混沌するのがよろしかろう
おのずから成るときまで

激しき欲のときは
激しく欲するのがよろしかろう
おのずからその流れの先に辿り着くとき
まで

悲しきときは
悲しむのがよろしかろう
おのずから解けだすときまで

恐れときは
恐れるのがよろしかろう
おのずから源の見えるときまで

死するときは
死するのがよろしかろう
おのずから死の生に気づくときまで

photopos-870

2017.1.23



誰も知らない
秘密の淵で

未明の時の
その彼方

魂ふるわせ
湧きいずる

甘く切なく
懐かしい呼び声

誰も知らない
秘密の言葉は響くのだ



* 仁淀川町・仁淀川上流・久喜沈下橋にて

photopos-871

2017.1.24



黙しているのだ
巖となって
あらゆるいのちの極北で

大地の詩は
神々のからだ

時を深めながら
静かに秘やかに詠う

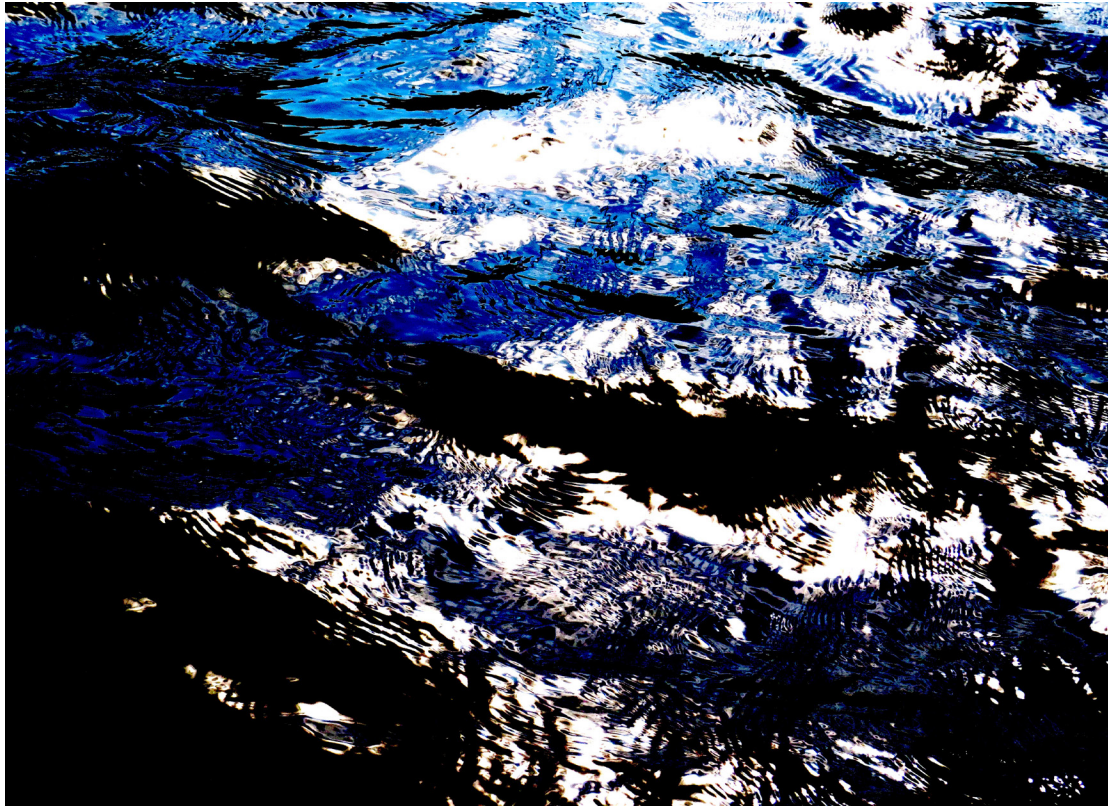
祈っているのだ
巖となって
あらゆる言葉を超えて



* 高知市・五台山にて

photopos-872

2017.1.25



叫びたくなるのは
光がこんなに深く青いからだ

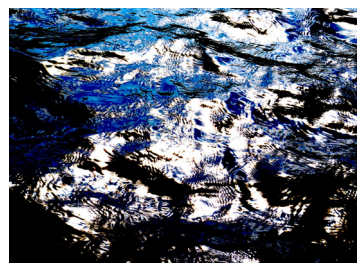
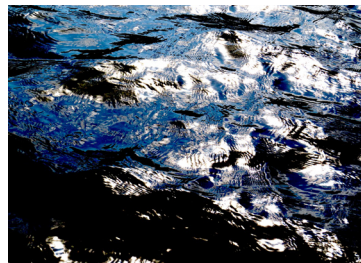
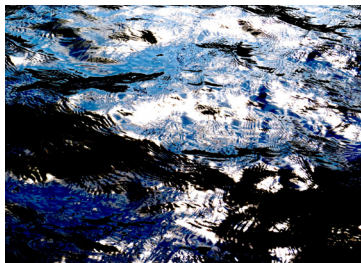
忘れることはできない
水はすべてを記憶する

痛いほどに悲しいのは
私がこんなに私の色をしているからだ

分けることはできない
主客の孤独は一幕の芝居にすぎない

切ないほどに懐かしいのは
天地のあいだを響き渡る風のせいだ

いまここを離れることはできない
彼方から永遠は降り注いでいる



* 高知県日高村・めだか池にて

photopos-873

2017.1.26

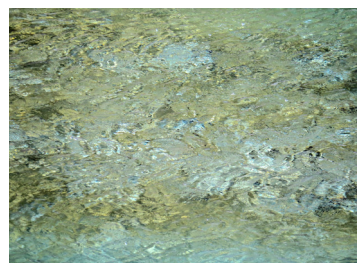
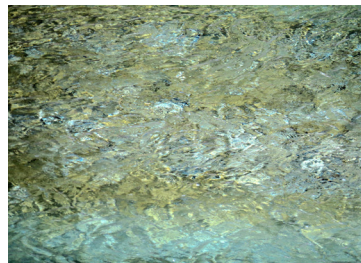
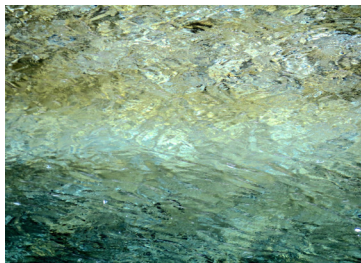


夢の境で
声を聞くか
水鏡の向こうから
ささやく声を聞くか

気をつけることだ
夢の境では己の筈が現れる
異形の姿が見えたとしても
それは鏡のなかの己なのだ

鏡のなかでは
与えるものが与えられる
その境を超えんとするならば
己を姿なきものに変えねばならない

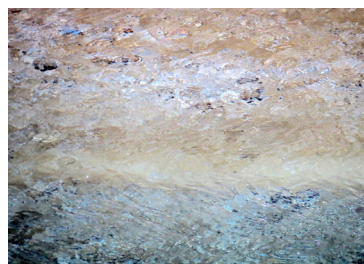
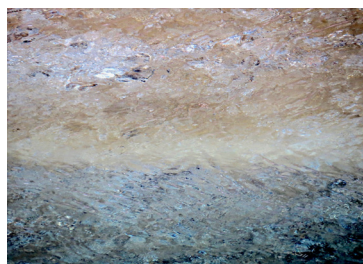
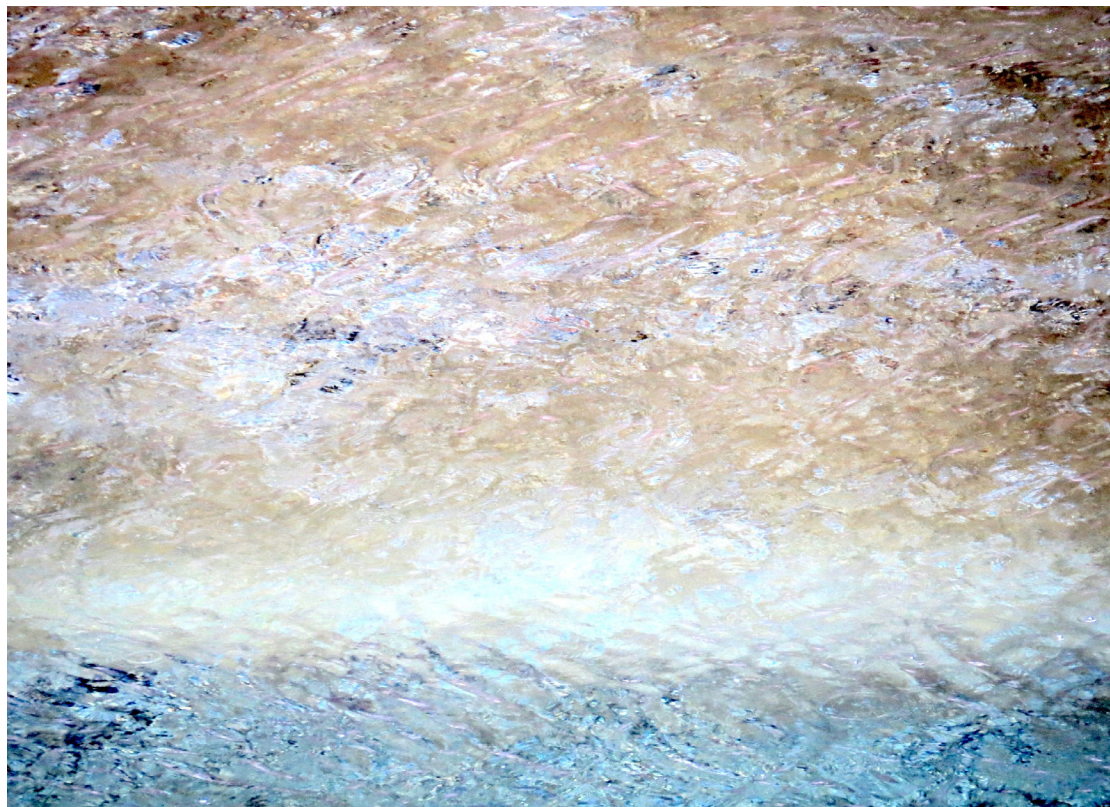
気をつけることだ
鏡の向こうでは
後ろの正面で虚の己が
こちらを覗いているのだから



* 高知県の町・仁淀川上流にて

photopos-874

2017.1.27



かつてそこに
それがあったことを知るものは
いまではだれもいないだろう

かつてそこに
描かれていた獣のことも
いまではだれも知らない

かつてそこに
響いていた楽の音のことも
いまではだれも知らない

ましてそこに
秘儀の神殿があったことなど
いまではだれにも知られない

かつてそこに
私がいたのだということも
私さえ覚えていないくらいだ

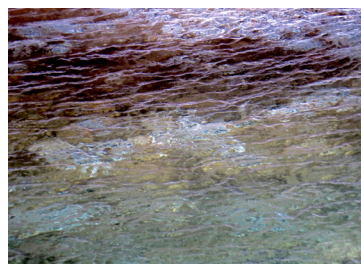
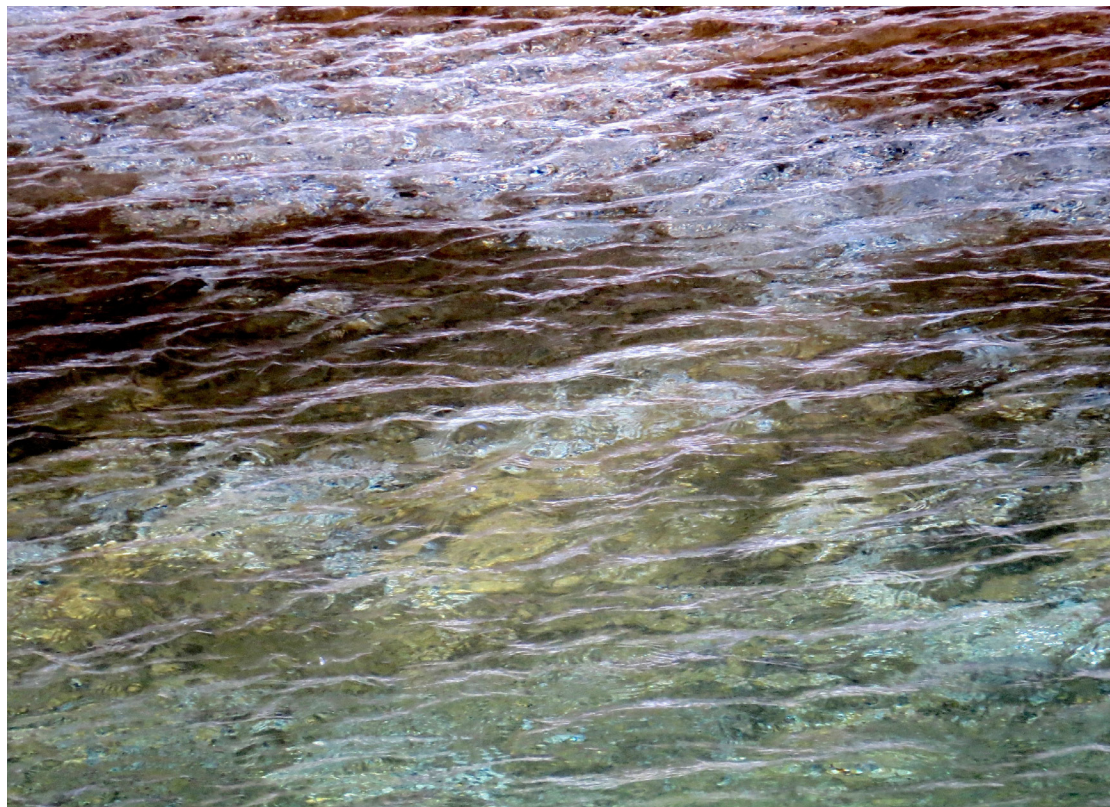
それはまるで白昼夢のように
記憶の切れ端のように
私のなかに浮かんでくるにすぎない

ましてそこに
かけがえのない人がいたことなど
いまではだれも知るよしもないことだ

* 高知県のいの町・仁淀川上流にて

photopos-875

2017.1.28



* 高知県の町・仁淀川上流にて

こころの
ていきあつからのびる
かんれいぜんせんが
わたしふきんを
つつかします

わたしという
げんしょうは
あめや
ゆきで
おおあれの
てんきとなるでしょう

そのご
はれまもみえますが
ごごには
にわかあめのところも
ありそうです

わたしという
げんしょうは
きまぐれで
なかなか
よそうができません

けれども
くものうえには
いつも
あおぞらと
ほしぞらが
ひろがっているでしょう